

今、体育祭に向けて走り続ける二中学生は、
スローガン「One for all All for one ～仲間と共に最高の勝利を～」を実現していくことの
難しさを痛いほど実感してきています。

でも、毎日の練習に正面からぶつかっていく中で、「One for all All for one」に一歩一歩近づいている姿が確実に感じられます。

自分たちで掲げた「One for all All for one ～仲間と共に最高の勝利を～」のよさを、二中学生全員が実感する瞬間を目指して、あと 1 週間が勝負です。

《「One for all All for one」に近づいている姿が、いろいろな場面で見られました》



- 実行委員の人たちが、二中学生全員をしっかりと見つめて、「ここはよくできています。次はここを改善していきましょう」と自分なりに考えた思いをしっかりと語るようになってきました。
- 実行委員の思いを受け取った二中学生一人ひとりが、「今、自分はこれをやるぞ」という気持ちをもって動くようになってきました。
- 応援団の人たちの中に、「自分はこの団のリーダーなんだ」という意識が少しずつ高まってきていることが、その行動の中に見られるようになってきました。
- 各クラスの中での「真剣にチャレンジする気持ち」「仲間と支え合ってチャレンジする気持ち」が少しずつ高まってきています。(長縄跳びで、仲間と支え合い助け合って跳ぶ気持ちの強さと跳ぶ回数が比例するようになってきました。)
- 練習の中で、誰かの一生懸命に取り組む姿や頑張る姿に接したとき、自然発生的に拍手がわき起こる場面が生まれてきました。



《そんな二中学生がこれからさらに頑張るために、全員が考えておくべきことがあると思います》

自分たちがやるべきことをしっかりと見つめて、「仲間と一緒に頑張るぞ！」と思って周りの仲間に声かけするとき、その話し方がとてもとても大切になってくるに違いありません。

例えば、今日から朝練習を行うことができるようになりました。そして、誰かが、みんなで決めた練習開始時刻に遅れてきたとします。

さあ、どんな声かけをしますか？ 「なんで遅れたん！ ちゃんとこんと悪いやろう！」と思わず言ってしまうような気がしませんか？

もし、その人にどうしようもない事情があって遅れたのだったら、その声かけはどんな気持ちを生んでしまうでしょうか？

今、そしてこれから、二中学生一人ひとりのよく考えた声かけのあり方が問われてくると思います。